

【テーマ】地域の自然や人にかかわりながら、自らの生き方を見つめる児童の育成

1 本校のESDでめざすもの

(1) ESDのねらい

地域の自然や人とのかかわりをおして、よりよいかかわり方について主体的な追究、解決、表現を行いながら、自らの生き方を見つめることができるようにする。

(2) ESDで育てたい資質・能力

- ① 地域の自然や人に関心を持ち、それらにかかわる課題について必要な情報を集めたり、調査方法を考えたりし、見通しをもって解決することができる資質や能力を育てる。
- ② 地域の自然や人とのかかわりをおして、よりよいかかわり方について考えを持ち、学んだことを発信し、自分にできることをしようとする態度を育てる。

(3) 本校ESDの特長

当地域は海、山、川等の自然に恵まれ、その恵みを生かした農業や水産業が盛んである。また、福祉施設が多く立地していたり、幼稚園や小学校、中学校が隣接したりと、様々な人々とのかかわりをもつことができる地域である。これら地域の特色を踏まえ、体験活動を通して、地域の自然や人とかかわることに重点を置いて取り組みを進めている。

2 今年度のESDの概要

(1) 実践の概要

生活科、総合的な学習の時間を中心に、各学年ごと、「環境」「福祉」「防災」の3分野の実践に取り組んできた。

環 境	1年「学校たんけん」 	2年「サケのひみつ」 	4～6年 探鳥会 
	福祉・ 防 災	3年『みのりの園』の人たちとふれあおう 	5年「海嘯碑に学ぶ」 

(2) ESDの課題の解決に向けて、今年度、特に工夫・改善したこと

- ・各学年では、体験をおしていろいろな人とかかわりながら学ぶことを重視してきた。「サケ増殖組合」やワカメ養殖の「蔵内之芽組」等、地域の団体の協力を得て、地域の環境や産業について考えることができた。
- ・5年生の防災の学習では、地域の津波碑・海嘯碑の記述を調べたり、建立者からその由来を聞き取ったりする活動を通して、地域における津波の被害の歴史を知り、先人が残した思いを理解したり、語り継ぐことの大切さについても考えることができた。
- ・4年生の福祉の学習では、本吉町社会福祉協議会から町内の目の不自由な方を紹介していただき、直接話を聞く機会を設けることができた。

### 3 「ポストDESDとしてのGAPの推進」に向けての成果と課題

#### (1) ねらい・目的の視点から

- ① 成果 地域の人や自然に主体的にかかわる活動を多く取り入れることにより、震災により変貌した地域を見直し、よさを見つめようとする気持ちが育ちつつある。
- ② 課題 震災復興の途上にあり、仮設住宅から離れて新しいコミュニティが作られようとしている。人的環境を含めていろいろな変化を考慮しながら、これからも地域教材の開発を進めていきたい。

#### (2) カリキュラム・マネジメント(指導計画・内容・方法, 連携・交流等)の視点から

- ① 成果 震災復興に向けて、日々変わっていく地域の様子と向き合いながら、新たな学習のフィールドを開拓してきた。主体的に問題解決ができる体験活動の質が高まってきている。
- ② 課題 震災復興の工事や三陸道の工事のために、学習のフィールドの選定はまだ流動的な部分が多いのが現状であり、計画を見直しながら進めていく必要がある。

#### (3) アクティブ・ラーニング(主体的・探究的・協働的な学習)の視点から

- ① 成果 地域振興事務所、社会福祉協議会などの諸団体からの協力だけでなく、地域の消防団員や漁師たちから直接話を聞いたり体験活動を行ったことにより、児童は「震災後、初めての体験だった」「身近にこのような施設やものがあるなんて知らなかった」などの感想をもった。その驚きや感動が、次の学習課題の設定へとつながり、質の高い学びができた。
- ② 課題 児童の日常での生活経験が限られており、また、学級の児童数が少ないこともあり、多様な意見や考えがなかなか出ない時がある。

#### (4) 評価(育てたい資質・能力に対する児童生徒の変容等)の視点から

- ① 成果 本校は海に近い地域にありながら、震災後は海とかかわる活動がなくなっていた。今年度は、海とのかかわりを考える機会を増やしたことで、児童は海の恵みを改めて実感しつつある。児童は地域のよさを再発見し、自分にできることを様々な角度から考えることができています。
- ② 課題 自分の思いや考え、まとめたことを発信する方法を、さらに工夫させていきたい。

### 4 今後のESDの方向性 ～21世紀型能力の育成等～

#### (1) ねらい・目的の視点から

- ・公民館や中学校、各種団体との連携を強化し、人とつながることのよさを実感できるような活動を増やしていきたい。プログラムの工夫はもちろんであるが、かかわり方の工夫を図り、地域の中の自分を考えたり、見つめ直したりする機会をもたせていきたい。

#### (2) カリキュラムマネジメントの視点から

- ・震災から5年が経ち、新たな環境での暮らしが始まろうとしている。集団移転により、これから新しい町や新たなコミュニティが作られる時期に入る。児童は、新しい環境を受け入れていくことが重要になってくるが、それだけにとどまらず、これまでに以上に、いろいろな人と触れ合いながら、よりよい暮らしを考えていくことが求められる。その現状を踏まえた、更なるカリキュラムの見直しが必要だと考える。

#### (3) アクティブ・ラーニングの視点から

- ・活動を精選して、より主体的・探究的な取り組みを目指したい。基礎力はもちろんのことであるが、思考力や実践力をつけていくことが課題となっている。特に実践力については、これまで以上に地域の人とのつながりをとおして双方向のやりとりを重ねていき、自立的な活動力を高めていきたい。

#### (4) 育てたい資質の視点から

- ・海に近い地域ということ踏まえて、海の恵みを感じる活動を更に進めていきたい。海や川などの自然に触れることによって、地域への愛着も深まっていくと考えられる。また、未来の小泉の担い手であることを認識できるような関わりをもたせていきたい。